

II 事業計画概要

「総合教職キャリアセンターの設置構想について」ですでに述べられている通り、兵庫教育大学では、平成 22 年度から、総合教職キャリアセンター設置準備室を設け、学生の入学から卒業まで、さらには、生涯にわたって教師として活躍できるための新しいモデルによる教師教育体制の構築を目指している。事業計画は、六カ年を予定しており、将来的な総合教職キャリアセンターの設置に向けて、今年度から、①調査研究事業（Research & Development）、②学習支援事業（Support）、③協働・調整事業（Coordinate）を三本柱として、さまざまな取り組みを試行的に行っている。

① 調査研究事業（Research & Development）

調査研究事業では、学校現場で求められる教員の資質・能力を明らかにし、それを大学での学びにいかにかし結び付けることができるか、教員のライフコースやキャリア形成・開発についてどのような研究が行われているか、あるいは学生の主体的な学びや経験をいかに発展させることができるか、そして国内外の他大学の先進的なキャリアセンターや就職支援センターがそのためにどのような支援の取組を行っているかなどについて調査研究する。

具体的には以下の通りである。また各項目の詳細については、「IV 平成 22 年度活動概要」の各節に記す。

- 教育委員会による教員養成の取組である「教師塾」の調査（1. 教育委員会（教師塾）訪問報告）
- 国内外の大学および教育学部における教師教育・キャリア教育とその研究・支援についての調査（2. (1) 国内外大学への調査訪問）
- 本学教員による、キャリア形成支援についての共同研究（2. (2) 共同研究「教職キャリアに関するプロジェクト研究」）
- 海外（韓国）からの教員養成大学研究者を招へいしての、共同研究会の開催（3. 日韓の教員養成制度改革に関する研究会）
- 卒業後のキャリアコースと、学校現場や職場で経験した危機に対してどのように対処したか、あるいはそのために大学のどのような学びやネットワークが役に立ったかをおもに聞いた、本学卒業生へのアンケート調査（4. 「学校教育学部卒業生の卒業後のキャリアに関する調査」の概要）

本年度は調査段階であり、次年度以降は今回の調査で得られた数多くの資料や知見をもとに、分析や議論のプロセスを重ねて、上述の課題に関して調査研究を推し進める。

② 学習支援事業（Support）

学生が将来、教師・社会人として成長、活躍するためには、正課内の学びだけで

はなく、さまざまな人や異文化との出会い、幅広い経験、成功や失敗体験が大学時代に必要となる。そのために大学は学生に何ができるのかを考えることは、総合教職キャリアセンター設置準備室の大きな課題の一つである。この領域における支援を「学習支援事業」と位置付け、以下の内容を試行した。

- 幅広い教養や人間性・社会性の涵養、コミュニケーションスキルなどの向上を目指す「教職キャリア形成支援講座」の実施（5. 学習支援事業について）。
- 学生が自己について見つめ直し、自己理解を促進するために、あるいは職業観やキャリアを考える際の手助けとして、キャリアカウンセリングを実施した（6. キャリアカウンセリングの実施について）。
- 基礎学力を確認し、進路についての理解を進めるプレイスメントテストを学部1年～3年生を対象に行った（7. 大学生基礎力調査の実施について）。
- キャリア形成、就職活動、教職試験対策、一般教養、文章表現、コミュニケーション力やコーチング、ファシリテーション力向上などに関する文献を収集した（8. 文献・資料収集及び所蔵一覧）。

今後どのような支援を行っていくか、まだまだ徹底した議論が必要であると認識している。今年度、教職キャリア形成支援講座ではアンケートを実施し、学生のニーズについて調査した。それらを分析し、来年度につなげ、学習支援事業を継続していく。

③ 協働・調整事業 (Coordinate)

ボランティアなどの課外活動も学生にとっては大きな学びと成長の場である。ただし、大学による課外活動の支援をこれまでも行ってきたが、窓口の分散など問題がなかったわけではない。協働・調整事業では、不登校支援ネットワーク（詳細は「9. インターンシップ（「NANA っくす」の活動）について」参照）や、ボランティア活動の実績と窓口について把握し、今後のサービス一元化に向けての準備を行った。

総合教職キャリアセンターが設置されれば、各部署との協働・調整機能は非常に重要なものとなる。そのために、情報の収集と整理を引き続き行い、どのようなサービス体制が学生にとってもっとも分かりやすく利用しやすいかを調べ、その体制作りを進めていく。

これらの三つの事業を柱として、教師としてのキャリア形成の道筋を明らかにし、効果的なキャリア支援プログラムの開発や、卒業後も含めた支援体制を整える。そして、正課のカリキュラム（授業科目・実地教育）と、正課外での自学自習・ボランティア活動等を有機的に結合し、キャリア教育と教員養成カリキュラムの協働による組織的・効果的な教師教育体制の確立を目指していく。